

小木の子 われら

校 区 内
全 戸 回 覧

令和5年11月2日発行

小木の魅力を「伝える」

校長 高橋 高志

10月28日の文化祭・学習発表会では、天候の悪い中でしたが、たくさんの方々にご来校頂き、ありがとうございました。人数の制限なく、このように多くの皆様に見守られ、学習の成果を発表できたことは、子どもたちにとっても得難い経験となりました。学びを自分の中にだけとどめておくのはもったいない、他の人に分かるように「伝える」ことでより価値が出てくるものだと思うからです。

発表の中には、地域を学びのフィールドに、地域の方々から学んだことを題材にしている学年がたくさんありました。子どもたちの発表を聞いて、私も初めて知ったことがたくさんあり、改めて小木の人・モノの魅力を感じました。

実は、私が初めて小木地区を訪れたのは、今から30年ほど前の小木港まつりでした。ある方が、見ず知らずの私に「寿司でも食べていけ」と声をかけてくださいました。誰に対しても温かい…これが小木の人との出会いです。

今から15年程前には、深浦小学校・小木小学校で7年間お世話になりました。竹細工・長者ヶ平遺跡・岬太鼓・板海苔作り・たらい舟・いももち等、小木ならではの多くのモノに魅了されました。

そして、嬉しいことに昨年度から再び小木小学校で勤務できることとなりました。驚いたことに、伝統的町並みやビオレソリエス、金の道等、これまでにない学びの題材が掘り起こされていました。先生方からは、「小木には、まだまだ教材化できる素材（レモン栽培・製塩・小獅子舞等）がたくさんあり、わくわくする」といった声も聞かれます。

最近日本を訪れる外国からの観光客は、日本の地方の人や暮らしに直接触れることに魅力を感じているそうです。30年前、15年前の私が感じたように、これまで受け継がれてきた小木の人情や生活の営みそのものが、最も価値ある観光資源なのではないかと思えます。子どもたちが地域の方々から学んだことを様々な場面で「伝える」ことで、小木地区の活性化に少しでもお役に立てば嬉しいです。